令和４年度学校教育自己診断アンケートの分析

文責　首席 矢野直子

1. 回答数と回答率

生徒の回答数 35（回答率97. 2%、長欠除く）、保護者の回答数 14（回答率58. 3%）、教員の回答数 18（回答率 100%）であった。

肯定的意見とは回答 A（そう思う）・B（ややそう思う）の合計の数値（%）で、である。

2. アンケート集計における傾向

昨年度のアンケート集計との比較をすると、保護者においては３つの項目で肯定的意見が増加した半面、7 つの項目で減少している。

また、生徒における肯定的意見はほとんどが増加しており 10%以上増加した項目が 5 つあった。すべての項目で肯定的意見は 60%を上回り、80%を切っているのは 1 つの項目だけであった。

教職員においては 16 項目で肯定的意見が増加しており、そのうち 8 項目で 10%以上ポイントが増加した半面、20 の項目で肯定的意見が減少し、そのうち７項目で 10%以上ポイントが減少した。

3. 授業について ― 生徒 4, 5, 18, 21、保護者 3、教員 6～10

生徒の肯定的意見が「4 教え方に工夫をしている先生が多い」が94. 3%と昨年度より 4.9 ポイント上昇、「18 授業などでコンピュータやプロジェクターが活用される機会がよくある」は 94. 1%と昨年度から 6.9 ポイント上昇している。さらに今年度から設けた「21 学校は１人１台端末の効果的な活用のために取り組んでいる」は85. 3%と高評価された。しかしながら、保護者の「3 子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている」は76. 9%と昨年度から 8.8 ポイント減少してしまった。

教員の取組みとしても「8 この学校では、創意工夫を生かした「いきいき」の時間を実施している」が 82.4%と 13.6 ポイント増加したが、「6 年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている」が81. 3%、「7 この学校では、他教科の担当者とも話し合いながら指導方法の研究・工夫・改善に努めている」が64. 7%と昨年度より大きく減少してしまった。「9 生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」も昨年度の100%からは減少してしまったが、94. 1%と高い数値となっている。「楽しくわかりやすい授業」の実現に向けて、今後も日々努力し続けなくてはならない。

4. 生徒によるアンケート結果から

生徒の肯定的意見が 80%を切っているのは１つ。

・「1 学校に行くのが楽しい」80. 0%は昨年度と比べると20ポイント近く上昇した、4 年生では 58. 3%と少し低くなっているが、4 年生の 9 割の生徒が「学校に来ること」に意味を見いだし「学校生活についての先生の指導」に納得している。今後も努力を惜しまないようにしたい。

・「6 悩みや相談を親身になって聞いてくれる先生が多い」は 84.4%、「7 先生はいじめなどに

ついて真剣に対応してくれる」は96. 0%と肯定的意見の割合が高く維持されている。また、「8 担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」は91. 2%と昨年度と比べると 20 ポイント近く増加している。今後もさらに相談しやすい関係を築いていきたい。
・「14 部活動は、自分にとって有意義な時間だ」が 62.5%と低いことについては、部活動に参加していない生徒が多く回答している影響が考えられる。実際、今年度の部活動参加者は延べで 18 人であるが、質問 14 に対しての回答数は 24 人だった。ただ、部活動に参加していない生徒が多いことについては、部活動が生徒の主体的・自主的な活動が基本なので簡単ではないが、何らかの対策が必要かと思う。

5. 保護者によるアンケート結果から

今回、昨年度に比べ 7 項目で肯定的意見が減少してしまったが、すべての項目で肯定的意見が 75%を上回っている。中でも「1 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」は 85.7%と昨年をさらに上回っている。次年度の教育活動へのモチベーションにしたい。ただ、保護者の回答率は６割を切っている。昨年度よりは２割ほど増加したが、回答率を上げる手立てを考えたい。

6. 教員によるアンケート結果から
・「8 この学校では、創意工夫を生かした「いきいき」の時間を実施している」82.4%、「9 生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」94.1%、「36 学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」100%と指導方法の研究・工夫・改善への取組みが見られる。今後、「教員の間で、授業方法等について検討する機会」を積極的に持ち、「他教科の担当者とも話し合いながら指導方法の研究・工夫・改善」にさらに努めていきたい。
・「14 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」100%、「15 生徒指導において、警察・少年サポートセンター・子ども家庭センター等の関係諸機関との連携ができている」92.9%、「18 この学校は、奨学金教育教材等を活用して奨学金制度等について指導している」100%、「22 生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している」87.5%、「24 人権尊重に関する様々な課題や社会ルールを守る意識育成の指導について、全教職員で話し合っている」81.3%と学校生活全般にわたって生徒の指導について肯定的意見が増加した一方、「12 生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」64.7%、「13 様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる」75%、「21 学校として部活動の活性化について工夫している」は 46.7%と肯定的意見が減少している。教員自ら問題意識を持ち改善していく必要がある。
・「25 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」53.3%、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」60%、「35 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」66.7%など肯定的意見が 10 ポイント以上減少した項目もある。また、「32 この学校では、図書館が生徒に活用されている」の肯定的意見が 33.3%ととても低くなっている。学校として改善のための取組みが必要である。